

学科としての教員養成の目標、計画、教育の質向上の取り組み

生命工学部 生物工学科（中一種免（理科）・高一種免（理科））

① 教員養成の目標

本学の教育理念として掲げている、「全人教育、人間と自然を尊ぶ教育、心情と愛の教育、知行合一の教育」が、教員養成の教育目標と同じであるととらえている。具体的には、教員に求められる専門性や実践的指導力の養成に加えて、豊かな教養、他者との協調性やコミュニケーション能力や教員としての使命感を備えた人間性を育むことを目標としている。さらに統合的な学修経験を経て創造的思考力を養い、課題を解決する能力を身につけ、独創的な授業を構築できる教師の育成を目指している。また、本学の恵まれた自然環境（瀬戸内の里山・里海）を活かした講義や実習を通して、生命に対する畏敬心と倫理観をもった専門知識を修得し、それらを生徒指導に活かすことのできる人物の育成に取り組んでいる。

② 教員養成の計画

学内に設置されている教職課程委員会において、教職科目の選定および該当科目シラバスの点検、時間割の構築、担当教員の選定、教育実習校への視察、教員免許申請などについて審議している。教育実習や教育実践・演習には、教育センターと学科教員が連携して学生の指導を行っている。

教職課程を履修するすべての学生は、その学びの過程を記録する「教職カルテ」を作成するとともに、教員としての必要な資質能力（学校教育についての理解、生徒についての理解、他者との協力、コミュニケーション、教科・教育課程に関する基礎知識・技能、教育実践力、課題探究心）についての自己評価を各年次で行うことで自己啓発に努めている。さらに、カルテを通して個々の学生の事情や状況を把握したうえで、その学生にとって適切な指導についての話し合いを行っている。

③ 教員養成教育の質向上の取り組み

上記の項目に記したように、「教職カルテ」や自己評価シートなどを用いて自己啓発に努めるよう指導している。教科に関する科目群は、一般的な講義形式にとらわれず、学生参加型のアクティブ・ラーニングを取り入れ、教育実践力、課題探究心や解決能力の養成に取り組んでいる。さらに2年次には、実技見極め試験（基礎実験技術の修得）、3年次には生物工学見極め試験（知識の修得）、そして4年次では卒業研究を通して、専門力、実践力、課題解決能力の確実な修得に取り組んでいる。また、教員免許更新講習時に、TA制を利用して現教員と接する機会を設けて、意識向上を図るようにしている。
